

## 令和6年度第1回四街道市史編さん委員会議 会議録

(作成者：社会教育課 松尾)

- 1 日時 令和6年7月29日（月）13時30分から14時30分
- 2 場所 四街道市役所第二庁舎 第2会議室
- 3 出席者 **【委員】（敬省略・名簿順）**  
須藤委員（委員長）、榎澤委員、綿貫委員、笹川委員、中臺委員（副委員長）  
**【事務局】**  
（社会教育課）田島課長、松尾課長補佐、伊藤主事  
中村市史編さん主任
- 4 欠席者 （敬省略・名簿順）林委員、遠山委員
- 5 傍聴人 なし
- 6 報告 (1) 令和5年度事業報告について  
(2) 令和6年度事業計画について  
(3) 『四街道市の歴史』資料編近現代2の販売実績等
- 7 議題 (1) 『四街道市の歴史』資料編近現代1の構成案について
- 8 その他
- 9 内容要旨 **■事務局**  
報告（1）～（3）に関する説明  
議題（1）に関する説明  
その他 新庁舎移転に係る市史関連資料保存について報告
- 10 主な意見等 **■榎澤委員**  
**【資料のデータ化について】**  
将来、市史編さん資料をデジタルライブラリ化すれば、市民が自由に閲覧でき、すごく便利になる。  
**【『四街道市の歴史』近現代1構成案「第2章第3節 教育・社会」について】**  
第1章と同様に子どもたちの日記等があれば良いのだが、あまり資料が無いということであれば、項目を「教育・社会」とするよりも、第1章第5節の「社会・生活」という文言にする方が良い。

■中臺副委員長

【資料集は学術的な文字資料が中心となることについて】

難しい文章は、写真とセットだと判り易くなる。

何かひとつでも手紙等があると、印象が残りやすい。

■須藤委員長

【来年度の会議の日程について】

来年度の会議は、考えた日程にしなればいけない。1回目に刊行内容がある程度固め、2回目の会議後においても資料の入替え等修正が可能な日程とするよう配慮が必要である。

11 議事

須藤委員長  
【開会】

それでは、定刻ですので、これから令和6年度第1回四街道市史編さん委員会を開催いたします。

【委員長挨拶】

今日も今年一番の暑さですけど、まずお体を大切にしながら、いろいろな議論したいと思います。

それでは、早速会議を進んでまいりたいと思いますが、まず社会教育課長からご挨拶をお願いします。

事務局（田島課長）

社会教育課長の田島です。よろしくお願いいたします。

本日は、暑い中、ご多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございます。

昨年度末におかげさまをもちまして、『四街道の歴史』資料編近現代2を500部刊行し、6月1日号の市政だよりにて周知、販売を開始したところでございます。

売上につきましては、後ほど担当者からご報告を差し上げますが、前回の本委員会でも、ご意見を頂戴いたしました資料集の内容の貴重さについては、ご購入いただいた方から多くの感想をいただいているところでございます。

特に第2章の、当時が偲ばれる故人の手紙をお読みになった方から、感想が多く寄せられております。

あらためて皆様からのご指導に感謝を申し上げますとともに、また市史編さん主任を中心に編さん業務に携わっていただいた皆様のご苦勞の賜物であると、この場をお借りして感謝申し上げます。

すでに次の刊行に向けて準備を進めておりますが、次回刊行される図書も、今回同様に郷土愛が育まれる資料となりますことを祈念してご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

須藤委員長

会議が始まる前に、

委員の皆さんは変わっておりませんが、事務局の顔ぶれがだいぶ変わっていますの

で、自己紹介をしたいと思います。

事務局（田島課長） 林委員と遠山委員から、事前にも、所用でご欠席される旨伝わっております。  
本日は5名の委員の方に出席いただいておりますので、過半数の出席とみなし、四  
街道市史編さん委員会条例第5条第2項の規定のとおり、会議が成立いたします  
ことをお伝えいたします。

須藤委員長 会議が成立するということですので、予定どおり進めてまいります。  
【委員自己紹介】 それでは、委員から自己紹介します。  
委員長を仰せつかっております須藤元夫です。  
よろしくお願いいたします。

中臺副委員長 中臺敬子です。よろしくお願いいたします。

榎澤委員 榎澤です。よろしくお願いいたします。

笹川委員 昨年4月からお世話になっております。笹川と申します。よろしくお願いいたします。

綿貫委員 綿貫です。よろしくお願いいたします。

須藤委員長 ありがとうございます。それでは、事務局の方、よろしくお願いいたします。

事務局（田島課長） それでは、事務局の紹介の前に、皆様にお知らせがございます。  
本年度組織改編が一部ありまして、社会教育課の中に学習振興係と文化係と市  
史編さん室、それから図書館がありますが、その中の文化係が、2階にあります文化  
スポーツ課に編入になりました。

職員は、文化係の業務をそのまま持って移動しました。  
文化係が居なくなったのは、本当に寂しいことではあるのですが、引き続き、窓口で  
の問い合わせ等で困ったときには、文化係と連携を組んで対応してまいりますので、  
今後も引き続き市民の皆様のサービスの低下にならないよう努めてまいります。

【職員紹介】 それでは、職員を紹介させていただきます。  
まず私の隣から、市史編さん室長で社会教育課課長補佐の松尾亮です。

事務局（松尾補佐） 松尾でございます。よろしくお願いいたします。

事務局（田島課長） 続いて、市史編さん主任の中村政弘先生です。

- 事務局（中村主任） 中村です。よろしくお願いします。
- 事務局（田島課長） 続きまして事務を担当して下さっております社会教育課の学習振興係の伊藤久美さんです。
- 事務局（伊藤主事） 伊藤と申します。どうぞよろしくお願いします。
- 事務局（田島課長） 最後に私、田島です。どうぞよろしくお願いいたします。
- 須藤委員長  
【会議の公開等】
- ありがとうございました。  
この会議の公開について。  
原則公開ということでございますので、今日の議題の内容から見て、非公開にするという用件は無いと思いますので、公開ということにしたいと思います。  
よろしいですか。
- （「異議なし。」との声あり。）
- 須藤委員長
- 会議録に、発言者の名前を明記することになっております。  
よろしいですか。
- （「異議なし。」との声あり。）
- 須藤委員長
- 議事録の確認は、発言者に議事録を確認してもらうということでよろしいですか。
- （「異議なし。」との声あり。）
- 須藤委員長
- 傍聴の件ですが、  
傍聴人はおりますか。
- 事務局（田島課長） 傍聴人はおりませんでした。
- 須藤委員長
- はい。ありがとうございます。  
傍聴人は無いということですので、そのまま進んでまいります。
- 【報告】
- 次第の5番目の報告からまいりたいと思います。

事務局（松尾補佐） それではご説明申し上げます。  
資料右上の資料ナンバー1に沿ってご報告申し上げます。  
市史編さん委員の職務といたしまして、ご覧のような所掌事務です。  
昨年度、委員会、2回開催させていただきました。  
1回目が、本日と同じように事業報告、事業計画でございまして、2月になりますと、  
近現代2の構成について、審議をいただきました。  
続きまして、昨年度の市史刊行物の販売実績等でございます。  
市史関連図書は、販売実績が95,400円。  
市史研究誌3から13号、1冊1,900円が24冊。  
四街道市の文化財1から26号、合わせて2,000円4冊ということでございまして、  
合計10万9,300円でした。  
引き続きまして、刊行実績です。  
資料編近現代2を500部印刷刊行しました。  
引き続きまして、市史編さん体制といたしまして、専任が1名、兼任が1名、中村市  
史編さん主任です。  
その他、市史編さん補助員、古文書解読1名、歴史民俗資料等収集整理員1名  
です。  
続きまして、活動実績です。  
現在も中村主任を中心に積極的にやっていたいております。  
収集につきましては、先日も市民の方から写真の寄贈がございましたが、写真のデジ  
タル化を進めておるところです。  
写真資料のデジタル化継続と、四街道市の古い写真資料の収集、古文書の解  
読、以上鋭意継続しておるところでございます。

須藤委員長 5年度の事業報告について、ご質問等ございますか。

（「なし。」との声）

須藤委員長 ありがとうございます。次、お願いします。

事務局（松尾補佐） 引き続き右上の資料ナンバー2に沿って事業計画を申し上げます。  
1番目の市史編さん委員会の職務につきましては、先程と同様です。  
続きまして、委員会の開催予定です。  
本日も含めまして、2回の予定です。  
今回は2月ということになっておりますので、皆様よろしくご報告申し上げます。  
市史編さんの体制につきましては、専任1名、兼任1名ということですが、

市史編さん主任、市史編さん補助員は昨年度と同様です。  
引き続きまして、刊行の予定です。  
令和8年3月に、今度は資料編近現代1を刊行の予定です。  
それに向かって準備を進めておるところです。  
活動の内容といたしましては、括弧4番です。  
四街道の明治大正昭和の写真のデジタル化。  
亀崎区の文書整理目録作成。  
旧千代田村、旭村、総務課移管の会計課文書整理・目録の作成。  
栗原東洋追加資料整理目録作成。  
千葉県文書館等の調査などです。  
市史編さんの資料のデジタル化継続。  
先程も申し上げましたが、写真を寄贈された方もいらっしゃいます。  
写真をデジタルに取り込むキャプチャー作業の準備中です。  
古文書につきましては、毎年度引き続き、作業をお願いしているところ。  
事業計画につきましては、以上です。

須藤委員長

6年度の事業計画についての説明がありました。  
ご質問ありますか。  
確認ですが、刊行物は7年度に発行ということですから、6年度は発行無しということ  
で、2年かけて出すという予定ですね。

事務局（松尾補佐）

はい。

須藤委員長

写真のデジタル化が何件か書いてありますけれども、実際には、データはどのような形で  
保存されているのですか。

事務局（中村主任）

パソコン上に保存はしているのですが、『写真に見る四街道の歴史』編さん時の状  
況をベースに、色々また編集し直そうということになっています。

須藤委員長

写真は市保有のデータということになっているのですね。

事務局（中村主任）

データだけは市が保存していますけど、現物はほとんどありません。

須藤委員長

その保存については、所有者が持っていらっしゃる写真でしょうから、良いと思います。  
写真の所有、使用についてはどうなっていますか。

- 事務局（中村主任） 『写真に見る四街道の歴史』の時の（写真所有者との）契約があります。  
それ以外の、市所有以外のものについては、再度紙でやりとりしないといけないと思います。  
他の人が借りたいという部分であれば、市としては関知できないので、直接持っている方に言ってもらわないと、市として許可は出せないということです。
- 須藤委員長 市として使う時も含めて、本人との確認がもう一度発生するということですか。  
持ち込んでいただいたのは、データだけであったということですか。
- 事務局（中村主任） 寄贈されたもの以外は、そうです。  
（次に許可を得るとき）『駄目だ』ということにはならないと思います。  
所有権が移らない限り、大丈夫だと思っています。
- 榎澤委員 例えば、色々な博物館ではデジタルライブラリがあります。  
博物館ないしは資料館にアクセスすれば、デジタルライブラリが閲覧出来て、抜き出して見ることができる。  
できれば、四街道市もそういう形で写真をデジタル化するのであれば、『四街道市の歴史』のような形で、市役所のホームページを作って、そこにアクセスすれば、市民が自由に見る、検索できる、というような形に将来的になると、すごく便利になると思います。
- 事務局（中村主任） それは、全国的には、博物館とか図書館もかなりやっているのですが、四街道市では、今のところ図書館でも、そういうことはやっておりません。  
やりたいとは思いますが、今は刊行が優先ですので、中々そこまでは手が回らないのが現状です。
- 須藤委員長 今のお話は、市史編さんの範囲を超えていますよね。  
四街道市として、どうするかですね。  
そうすると、使う可能性のあるものをデータ化しているという話ですね。
- 事務局（松尾補佐） そうです。  
あとは、データベース化して委員の先生のご提案されるようなことになれば、理想です。  
先日、知見者の方からも、そのようなことができれば、というご意見をいただいたところです。  
ただ、予算の関係ですとか、人員の関係ですとか、色々乗り越えなければならぬ

壁があります。

須藤委員長

色々なデータを整理しているということです。  
他に6年度の事業計画についてよろしいでしょうか。

(「はい。」との声あり。)

それでは次のご説明をお願いします。

事務局（松尾補佐）

資料のナンバー3に沿ってご説明申し上げます。  
資料編近現代2、500部刊行させていただいた中、有償でご購入いただいた方、5月に4冊、6月に13冊でございました。  
その後は、無償の販布ということで、ご協力いただいた方に、お礼状とともに36冊をはじめ、191冊ご案内して配らせていただきました。  
報告につきましては、以上です。

須藤委員長

何かご質問ありますか。

綿貫委員

資料編は、いくらで販売していますか。

事務局（松尾補佐）

1,500円です。

事務局（中村主任）

写真集も含めて一律で1,500円になっています。

事務局（松尾補佐）

このボリュームで1,500円です。  
普通に本屋で売ろうとすると、1,500円ではいけないと思います。

中臺副委員長

追加で増刷出したことありますよね。

事務局（中村主任）

あれは写真集です。  
写真集は500部作ったのが完売したので、更に500部が追加になっています。

中臺副委員長

もっと多めに作ることは難しいですかね。

事務局（中村主任）

そうですね。  
500部作って200部ずっとまだ残っているということですから、今後は周知をして、より

多くの人にお送りするということで、よろしいのかなと思っております。

須藤委員長

この3つが報告事項ですが、よろしいですか。

(「はい。」との声あり。)

それでは、5番目の報告事項は以上にさせていただきます。

【議題】

それでは、6番目の議題の方に移ります。

『四街道市の歴史』の近現代1、今度作るもののお話ですよ。

それについて説明をお願いします。

事務局（中村主任）

近現代2が刊行されて、3、2の次は1となります。

1の次が4ですけども、近現代はその4冊で終了します。

資料は1と4を同時に集めていますが、次の刊行物としては近現代1になります。

構成案としては、資料のナンバー4に書いてあります。

近現代2が、少し固い軍事関係でしたので、今回は、明治から昭和の20年までの村の、町や村の様子ということで、3章の構成にしました。

まず、第1章が「明治・大正・昭和初期のむら」ということで、明治2年ぐらいから昭和11年ぐらいまでの資料を載せる予定です。

第1節が政治関係で、政治家として戦前に代議士になった人は、大塚常次郎という山梨の人です。

県会議員も大川さん一人しかいませんが、大川さんの資料は無いです。

大塚常次郎は明治に活躍した人で、一時期は非常に活躍した人ですが、代議士を辞めた後、実業家に転身しました。

資料が散逸しておりますが、書簡文を含めて色々な資料があります。

大塚常次郎については、新聞記事を集めて取り出す予定です。

大塚常次郎だけですが、第1節としました。

第2節は「行政」です。

これは村の役場文書等を中心にしたものです。

明治2年、明治5年、明治15年の資料は、井岡家にあった資料です。

井岡家は、戸長とか色々やっていたので、そういう文書が残っています。

明治16年の「長岡村誌」というのは、「長岡」という名で、今も地名が残っていますが、明治21年に町村合併で千代田村になる前は長岡村と言いつつ、その時に、恐らく県から、村の歴史を纏めるよう指示があったと思いますが、その一部を纏めたものが存在しています。それを当時の様子が判るものとして載せる予定です。

「事務摘要」というものは、いわゆる区長等の立場の人が、役場からの文書を書き写した冊子です。

大正9年の「千代田村事務報告」については、町村合併以降に旭村を含めた各村で、必ず1年に1回は事務報告を議会に提出しなければいけない旨、町村制という法律に規定されておりまして、非常に詳しく書いている村もあれば簡単に終わらせてしまっている村もあります。

それが面白いところですが、それぞれ町村長さんの力量みたいなのが問われているところでもあります。

町村長の中でも一生懸命やっている人は、この事務報告を10何ページから20ページとか、そのくらい書いて作っているところもあります。

片や、議会で簡単に通そうとして、5枚ぐらいで済ませているようなところもあります。

これは村の様子がわかって素晴らしいのですが、どの村でも、散逸してしまっていて、殆ど無く、残っているところは数点というものが現状です。

千代田村も旭村も、事務報告はほとんど残っていませんが、大正9年の千代田村の事務報告を入れたいと思っています。旭村もありますが、過去に一部紹介済みです。

この事務報告を入れると、ページ数をかなり割きますので、行政はこの内容で終わってしまう可能性があります。

ですから、指示事項や町村自治振興に関する件が入るかどうかは、ページ数の関係上、入れることが出来れば理想です。

昭和になりますと、だいたい画一的なものが多くなりますので、明治・大正を中心にしようと思っています。

第3節は「産業・経済」と書いてありますが、ここではページ数の関係もあり、産業といっても農業が中心になりますので、農業の経営決算報告を入れる予定です。

粟飯原家の経営決算報告や、小麦に関するもの、農業関係を入れたいと思います。

その他ページが残っている部分では、（四街道は）鉄道が千葉県で最初に敷かれましたので、鉄道関係の資料が残っている林田家などの資料を、載せたいと思っています。

本来は商店などの資料があればいいのですが、特殊な街でしたので、中々それが見つかってない現状で、数点ぐらいしか入らないと思われます。

料理屋とか色々な店は、新聞に広告を載せておりますので、「新聞に載った事実を掲載しようか」、という程度になってしまうと思います。

第4節は「教育」ですが、教育の資料が全然出てこないため、困っているのですが、井岡家に、子供の夏休みの日誌が残ってありました。

「これは面白いかな」ということで、井岡家の許可が得られれば、明治時代の子供の

夏休みの日誌ということで、載せようかなと思っています。

南小、四街道小、旭小が学校としては古いのですが、今のところ旭小は資料があることは確認出来ていますが、南小は確認出来ておりません。

四街道小は金庫の中に古い資料があるので、これを提示してもらい、資料を探したいと思っています。

今のところ、旭小の資料しか提示はされていません。

それから第5節が「社会生活」ということで、ここは新聞記事などにより、青年団運動がかなり盛んだったみたいで、大正期までに県の表彰を受けています。

その青年団運動の資料が、小川家や井岡家に残っているので、この青年団運動を中心に載せようかなと考えています。

250ページの枠の中にこれだけのボリュームは入らないので、特色あるものだけにしたいと考えています。

第2章「戦時体制下の町村」は、昭和12年から20年の資料を扱う予定です。

第1節「行政」、これは昭和13年事務報告書としております。

これは、旭村の事務報告書、先程言いました大正9年の「千代田村事務報告」と同様、義務付けられたものです。

千代田村、旭村を載せれば、ページを取りますので、他は中々難しいと思います。

それから産業経済は、この当時、戦争中の食料増産運動や色々細かい農業に関する農政遂行の「農事実行組合」というのがありまして、その活動を記録したものを載せようと考えています。

第3節は、当時は戦争への防空訓練などの戦時下の生活について載せていこうと考えています。

第3章では、近現代3や近現代2にも入れました農民の記録を、入れようと考えています。当時の農民がどういう活動をしていたかということが判るのではないかと思います。

維新からまだ8年しか経っていない明治8年の楠岡家に残った記録で、農民の1日1日の細かい活動記録が残っています。

子供の夏休みの日誌と同じように、井岡家にも日誌が一部残っています。

それから戦時下としては、昭和17年の日録ですけれども、篠崎家に農民の記録が残っています。

近現代3で昭和29年のもので取り上げた桜井三郎さんも、日記を多く残してまして、昭和15年も残っており、これをどうするか考えております。

以上です。

須藤委員長

ここに書き出されているのは一部ですね。

事務局（中村主任） 一部です。一応主なものとなっています。

須藤委員長 資料編近現代が1、2、3、4の中の2と3が発刊されています。  
今ご覧いただいているのが1という、順番としては一番目のものとなります。  
これをご覧になって、今の段階で、ご意見、感想、質問をお願いします。

綿貫委員 第3章の第1節が抜けておりますね。

須藤委員長 第3章第1節というのは何ですか。

事務局（中村主任） 明治期の日記となります。

須藤委員長 例えば行政のところだと、資料の出どころが無いから仕方が無い、と言ってしまえばそれまでですが、長岡の井岡家の資料が充実しているものだから、どうしても資料の中心になりますよね。  
出来るだけバランスがとれれば、という気がします。

事務局（中村主任） 井岡家と小川家は文書目録がありますので、分量が多いという理由があります。  
その中で、小川家は近世のものが、井岡家は、明治以降の近現代に面白い資料が残っています。

須藤委員長 ここには、使いやすいものがあるということですね。

事務局（中村主任） はい。どうしても井岡家を中心になってしまいます。

須藤委員長 四街道は千代田と旭が大きな区域で、井岡家のある長岡は千代田に所属している村ですけども、16軒くらいの小規模な村です。  
そんな小規模な区域とは違って、もっと大きい区域が存在していますが、資料が揃っていない実情がありますよね。

事務局（中村主任） 亀崎は大きい区です。通達文書が結構残っています。  
ですから第2章には亀崎区の資料が載ってくると思います。

須藤委員長 実際には、いい資料を載せるのが良いに決まっていますが、バランスがとれればいいなとも思います。

- 事務局（中村主任） 写真集の時もそうだったのですが、旭村と千代田村でいうと、やっぱり千代田の方が資料は多いです。  
旭村でも、吉岡方面は、資料は無く、有るのは駅の近くになります。
- 須藤委員長 委員の皆さんいかがですか。
- 榎澤委員 教員を何年もやっていたので、教育に関わっているところに興味があります。  
明治時代の第1章については、教育に関して、「子どもたちの日誌が出てきた」とありましたね。
- 事務局（中村主任） そうですね、子どもの日誌で、夏休みの日誌ですね。
- 榎澤委員 第2章の第3節のところに「教育・社会」とありますよね。  
ここでその教育の部分では、どのような資料があるのですか
- 事務局（中村主任） あまり無いです。  
ですので、戦争との関連の記録を中心に出すしかないかなと思っております。
- 榎澤委員 先程の明治時期と同様に、子どもたちの日記とかあれば良いのですが。
- 事務局（中村主任） 戦争中にそういうものが残っていれば面白いと思います。
- 榎澤委員 この昭和12年の「防空訓練計画」というのは、これは子どもたちも動員されている計画ということですか。
- 事務局（中村主任） これは一般の人のです。  
あくまでの基本の計画ですので、そんなに面白い資料では無いです。
- 榎澤委員 教育に関わって、第2章であまりないのであれば、第3節の項目建てのところで「教育・社会」というよりも、第1章のところに出てきた第5節の「社会・生活」という文言にする節建ての方が良いのかなと思います。
- 事務局（中村主任） はい、そうですね。  
今のところ、教育資料は中々出てきていません。
- 須藤委員長 昭和12年以降ということになると、かなり戦争が色濃くなってるので、資料の発掘

が難しくなりますよね。

事務局（中村主任） 亀崎の通達文書は多いです。  
例えば、当時の部落会や町内会でも、戦時中の子ども達の活動日誌などが出てくれば面白いのですが、中々今のところ出て来ていません。

中臺副委員長 第3節の大正8年8月31日の栗飯原家は、上野の栗飯原さんですか。

事務局（中村主任） はいそうです。

榎澤委員 全体のボリュームの話から言うと、1章が多くなっていますよね。

事務局（中村主任） そうですね。やっぱり1章の方は多くなります。  
3章の記録をどうするかによりまして、ボリュームを調整できるのではないかと思います。

事務局（中村主任） 前回と同じようにあまり硬い文章ばかりでは無く、新聞記事も一応載せています。

須藤委員長 本年度の編さん委員会は、今日と年度の後半に2回目がある予定ですか。

事務局（松尾補佐） はい。

須藤委員長 来年度も、2回会議を開催しますよね。  
そうすると、この次の会議では、この内容が、もうちょっと具体的になって出て来てくるということになりますか。

事務局（中村主任） 構成案の具体的な1点1点を出すということになります。  
まだ枚数は固まっていないかもしれませんが、「こういう資料でいきます。」という感じになると思います。

須藤委員長 わかりました。  
委員の皆さんには、感覚的に前年同期より少し早まった時期に「こういう資料でいきます。」というものを見られることになりますね。

中臺副委員長 写真集がたくさん売れていますね。  
今度の資料編1では、写真とかそういうものを一緒に掲載しますか。

- 事務局（中村主任） 資料だけです。
- 須藤委員長 感覚的には、資料編2とほとんど同じですか。
- 事務局（中村主任） このシリーズは、全く同じになります。  
写真が載るのは、はじめだけです。  
あとは、許可を得ることが出来れば、この中に図や絵が載ることはありますが、著作権がありますので、中々図表が載ることはありません。  
写真も含めて、著作権がありますので、中々難しいです。
- 中臺副委員長 資料集と写真集を分けて発刊するということですか。
- 事務局（中村主任） 資料集というのは、どうしてもこのような文章表現になります。  
このようなパターンで仕方が無いかなと思います。
- 中臺副委員長 資料と写真を一緒に掲載できないということは、資料に合う写真でないと、載せられないということですよ。
- 事務局（中村主任） 資料と合う写真を探す作業は、大変な作業になります。  
1年や2年では出来ません。  
もうちょっと長期のスパンで考えないと出来ません。  
現状では難しいと思います。
- 中臺副委員長 難しい文章は、写真とセットだと判り易くなりますけどね。
- 事務局（中村主任） あれは市制40周年記念の本です。  
その前の30周年でも出しております。  
次の50周年の発刊を考える上で、どうするかということになります。  
そういう発想もいいとは思いますが。  
絵図、写真、地図を絡めて文章を入れて説明していく方法は、私が参考にしていました。  
ものでは、立川市史の本でそのようなものがあったと思います。
- 中臺副委員長 資料集というのは、学術資料として、そのもの自体に価値があるということもありますよ。

あえて写真は入れなくても。

- 事務局（中村主任） 例えば、この近現代2で、地図を入れて、写真を入れている部分があります。これは、栗山の廠舎の写真ですが、廠舎の中の写真は珍しいです。中々無いので、これを入れて、その歴史をこちらに書いておけば、非常に詳しい説明になります。本の内容を、全てこのようなもので作るのであれば、かなり時間を要します。
- 中臺副委員長 人手も要ることになるのでしょうか。
- 事務局（中村主任） 人手も要ります。
- 中臺副委員長 専門家だと面白いのでしょうけれど、私ども素人にとっては、中々。先程の近現代2にもありましたけど、何かひとつでも色々な手紙など出てくると、悲壮感が出てきて、涙が出そうとか、印象が出やすいと思いますが。
- 事務局（中村主任） 人の活動が生きているものを出すことになれば、歴史ものとしては、非常に面白いです。例えば手紙とか日記を出すことになれば面白いですが、中々資料の発掘が大変です。
- 中臺副委員長 どうしても時間がかかってきますよね。
- 事務局（中村主任） 日本人は記録をつける習慣がありますが、それが残らなかったということが現状です。日本人は、結構そのような記録はつけていますが。
- 中臺副委員長 後の人、つまり子孫が意識して残さないと残らない。
- 事務局（中村主任） そうですね。例えば家計簿なんかも非常に重要ですが、「他人の目に触れるのは嫌だ」ということで大体処分することになりますよね。
- 中臺副委員長 そうですね。自分の書いた記録でも、自分で燃やしてしまいます。
- 事務局（中村主任） 自分の書いた記録だって、そういうことありますよね。だから、そのような記録は取っていても、中々残らないということが現状です。

- 綿貫委員 遺品を整理するときに出てくる写真が、市場に出回っていることがありますよね。  
郷土資料とか。  
四街道のものは、非常に少ないですが、資料としては古い写真の方が大量に出ています。（値段が）高いですが。
- 事務局（中村主任） だいぶ集めているコレクターの方は、大勢いますよね。  
インターネット上で、手紙も結構売買されています。  
土曜市などで売りに出されている文書を見ていると、手紙類なんかも置いてあります。
- 綿貫委員 だけど、こういうもので四街道の歴史に直接合うものは、ごく少ないですよ。
- 事務局（中村主任） 少ないです。
- 綿貫委員 資料に合った記念写真でもあれば、そのままの感じはありますがね。
- 須藤委員長 この後、今日、次回、来年度の1回目、来年度の2回目、そして、本を出すという段取りになります。  
そうすると、来年度の2回目が、先程説明された資料ナンバー1の報告のところの5年度の事業報告が2回目の会議に当たりますよね。  
今度、本を出す時には、この5年度が、7年度になる訳です。  
もちろん、1回目の会議は、本日のこのような内容で良いのでしょうか、前年度は、2回目の会議を2月21日にやっています。  
会議の資料として提示されたものが、（発刊する予定の）本のグラに近いものでした。  
「見て気がついたことがあったら」という内容で会議を進めたのですが、現実的に3月31日にはこの本を作るわけですので、日程的に無理がありました。  
ですから、来年度の2回会議は、考えた日程にしなければいけないと思っています。  
また、そのためには、そこまで仕事が進んでいなければならない、という問題もついてきます。  
そうしないと、十分に審議を受けたことになる文書発刊の日程に入りきれないですよ。
- 事務局（中村主任） そうですね。

- 須藤委員長                    ということですので、実際に掲載する資料名は、1回目のときでほぼ固まって、あとはその入れ替え程度で2回目のところに行かないと難しいですよ。
- 2年間は、あまり余裕無いですよ、結構大変ですよ。
- 先程、2章目で、「教育の部分が厳しい」というような話がありましたけれども、そういうような話も含めて何かありますか第2章のところでは、政治がゼロになっていますが。
- 事務局（中村主任）        戦争中は、政治家は居ないですね。
- 軍人の時代ですから。
- 須藤委員長                    この議題の件について、他に質問等、ご意見等ありますか
- この次からは、この方向で会議を進めてもらう、ということよろしいですか。
- （「いいです。」との声あり。）
- 議題については以上です。
- 【その他】                    次に、議題7の「その他」です。
- 事務局から何かございますか。
- 事務局（松尾補佐）        事務局からですけども、次回は2月で予定しておりまして、近現代1の内容のご審議をお願いしたいと考えております。
- よろしくお願い申し上げます。
- 須藤委員長                    質問です。
- 5年度の事業報告の販売実績の表に、「四街道市文化財」が載っていますね。
- 毎年度のこの報告に入っていますが。
- これは文化係が担当する資料ではありませんか。
- 事務局（田島課長）        こちらのほう、協議が済んでおりまして、本の販売、それから本の在庫管理などは、市史に通じるものがあるということで、社会教育課で管理することになっております。
- 事務局（田島課長）        事務局からお話させていただきます。
- 四街道市役所では、ただ今、新庁舎を建設中です。
- そこで、皆様にご報告ですが、
- （市長部局が）新庁舎へ引越しをする際に、出てきた資料の中で捨ててしまう資料で、「もしかして市史に関係するかな」というものがありましたら、私達に連絡くださ

い、というお知らせを2回程出させていただいています。

現在では、主だった成果は出ておりませんが、「貴重な資料はそのまま取っておいて下さい」という連絡の徹底や、社会教育課でも令和8年の1月に引越しを予定しておりますが、社会教育課で保管場所の確保が困難な本は、協議を経て図書館に引き渡すなど、引越しの整理の中で貴重な資料が無くならないようにする努力を、ここ1、2年させていただいているということを報告いたします。

須藤委員長

1月に越すということは、この場所（第二庁舎）が無くなるということですか。

事務局（田島課長）

今のところは、現在ある庁舎で「市史編さん室」が入る予定です。

中臺副委員長

資料を置く書庫などは無い予定ですか。

事務局（田島課長）

難しくなります。

そのため、今のところは、八木原小学校に置くものと、重複の有無を確認の上、状態の良いもので保存を十分にすべき資料は、図書館に保管するはこびにしたいと考えています。

【閉会】

以上で今年度第1回目の市史編さん委員会を終了します。  
ありがとうございました。